

## 入選

### 「人と人」であれば

千葉県 和名ヶ谷中学校 二年

宗形 真桜

予約の時間が近づいてきて、私は姉と二人で家を出た。歯に薬をぬってもらいに、かかりつけの歯医者へと足を運んだ。私は歯がもともと弱く、きちんと手入れをしているつもりでも、食事中にとつぜん歯にヒビが入り割れてしまったり、欠けてしまったりする。なので、またそうなる前に定期的に近所にあるかかりつけの歯医者を訪れている。

歯医者は空いていた。診察が終わり、私と姉は出入り口から外へ出て、あるおばあさんを見つけた。おばあさんは車いすに座っていて、一人だった。車いすを押してくれそうな人もいなくて、自分の両手でタイヤを回し、少しずつ前へ前へと進んでいる。自分一人で進むのは大変そう。それに、人気の少ないこの辺りで一人、車いすを押しているその人がなんだかさみしそうに見えた。

「大丈夫かな……、あのおばあさん。」

と姉がつぶやいた。

そして姉は、おばあさんのいる方へ一歩足をふみ出した。きっと、おばあさんに何か話しかけようとしている。そう思って、私は少しとまどった。

（どうしよう。何を言いに行くんだろう。とつぜん知らない子どもに話しかけられて、おばあさんが驚かないだろうか。）私はそう考えた。

歩いていく姉に続いて、私はとまどいながらもおばあさんの方へ向かった。

「大丈夫ですか？ 車いす、押しましようか。」

という姉の声を聞いて、おばあさんは少しだけびっくりしたような顔つきになってから、

「あら、ありがとう。わざわざいいの？」

などと言い、「はい。」という私の返事を聞いて、とても嬉しそうな顔をした。姉が車いすを押して、私が横でおばあさんの話し相手になった。

おばあさんは、とても幸せそうな顔をしていた。そして、それを見ていた私もとても嬉しくなって、心が温かくなっていた。私はそのとき、初めて他人とわかり合えたような気がした。他人が苦手な私でも、こんな風に初対面の人と楽しんで、共感できる話をする事ができて、本当に相手に心を開くことができるものなのだ、と初めて知った。

親しい人とか他人とか、そんなものはあまり関係なく、「人と人」であればきっと、お互い心を開いて笑顔になることができる、と私は思う。

これからは、困っている人を見たら声をかけることはもちろん、新学期やクラス替えなどのときにも初対面だからとためらわずに、互いに心を開けるように話しかけたり声をかけたりできるようになりたい、と思う。